

令和4年度 入学式 校長式辞（令和4年4月8日）

陽春のうららかな日差しが、希望に満ちた新たな門出を祝福しているような今日の佳き日に、保護者の皆様をお迎えして、ここに、岡山県立岡山朝日高等学校の令和4年度入学式を挙行できますことは、この上ない喜びとするところであります。

ただいま、320名の皆さんに入学を許可いたしました。

本校生徒となった新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。教職員をはじめ、皆さんの先輩となる在校生のすべてが、皆さんの晴れの入学を祝福し、心から歓迎いたします。

本校は、岡山藩主池田光政公が創設した藩校の流れをくみ、1874（明治7）年6月、岡山城西ノ丸跡、現在の岡山市民会館のあたりに、教員養成の目的で温知学校が開設され、8月には「予科」として、教員志望でない生徒も受け入れることになりました。我が国の近代的な教育制度は、1872年に公布された『学制』に始まりますので、まさに近代日本の黎明期に、中央から離れた岡山の地に、全国でもいち早く本校が創立されたのです。

また、当時、新しい時代を切り拓いていくためには、洋学が大切であるとして、本校が英語を重視した教育を行っていたことは特筆されるところです。

そうした本校は、今年が創立148年目となります。

つまり、二年後、皆さんが最上級生である年に、本校は記念すべき創立150周年を迎えることとなります。その時の大きく成長した皆さんの姿を想像し、大いに期待しているところです。

その成長のために、本日入学した皆さんに二つのことを望みます。

第一に、本校の教育方針である「自主自律」と「自重互敬」の精神をもち、社会に範たる人間として成長し、VUCAの時代と言われる先の見通せない、予測困難な時代の新たな社会を明るく切り拓き、未来に貢献する人間を目指し、不断の努力をしてもらいたいということです。

「自主自律」とは、なすべきことを自ら考え、自らを厳しく律し、それに基づく自由を尊重する態度を示しています。また、「自重互敬」とは、自ら

を大切に、教養を高め、品位を保って、他者を敬愛することのできる人間になることの大切さを説いたものです。

皆さんには、「自主自律」、「自重互敬」の八文字を、今ここで、胸に刻んでもらいたいと思います。

第二に、その精神を礎に、「高い志」を立ててもらいたいということです。高い志を持ち続けることによって、人は自分を磨く努力を継続し、心に決めた目標や信念に向かって進むことができます。

3年間の高校生活は順風満帆な日々ばかりではないでしょう。環境や人間関係も変化し、学習や部活動などで努力の成果がなかなか表れず、時には挫折や焦燥感を感じたり、自信を失ったりすることもあるでしょう。しかし、そんな苦しい時こそ、人は大きく成長していきます。志が高いほど、乗り越えるべき壁も高くなります。空に舞い上がる凧が一番高く上がるのは、風に向かっていているときです。風に流されている時ではありません。「高い志」を胸に、困難な状況を乗り越える逞しさを身につけてください。

そのためにも、ぜひ本校で、ともに高め合うよき先輩、よき友人に出会ってください。その関係は一生の宝になると思います。今日から千人を超える先輩や同級生、多才な人たちとともに、語り合い、「切磋琢磨」するなかで、自分を磨いていってもらいたいと思います。

さて、保護者の皆様、お子様の御入学、誠におめでとうございます。お子様は、貴重な青春の3年間を本校で学ばれることを決意され、本日入学されました。

ご承知のとおり、高等学校におきましては、本年度から三年生の誕生日には成人となります。この岡山朝日高校を飛び立つ時には、お子様がしっかりと自分で考え、よき方向に判断し、行動できる、人間性豊かな自立した人格として、また、未来の社会に貢献する有為な人材に育てていただきたいと考えております。

私たち教職員は、お子様が自分の将来を具体的に思い描き、資質や能力を伸ばすことができるよう、誠心誠意、最大限の努力をしてまいります。

どうか本校との連携を密にさせていただくとともに、本校の教育方針に格別の御理解、御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

終わりにりましたが、本日、本校の生徒となった皆さんが「岡山朝日の空気」を胸一杯に吸って、青春の情熱を燃焼させ、逞しく、そして心豊かに成長してくれることを心から期待し、式辞といたします。

(岡山県立岡山朝日高等学校 校長 平田善久)